



これは蛇のぬげがらす。
キラキラの水をかきました。
落ち葉の家に住んでいた虫
水車をつくりました。
いろいろな稲がありました。

里山の秋ができました。

発表はチームごとに。
創作したチームの4人が作品の説明をしていき
そのあとで他チームの子どもたちが質問してい
きました。子どもたちならではのユニークなや
りと笑顔が教室にあふれていました。

チームで探した棚田の秋でした。
あ〜でもないこ〜でもない 16人の創作活動
はすすんでいきました。やがてちいさなため息
がもれはじめたころ4枚の白い紙にはチームで
協力して探した棚田の秋が彩られていました。



色々な色の毛糸はなんですか？

水車のそばに
あるのはナンデスカ？

田んぼのそばの黄色は？

青い糸は？



自然は驚きの玉手箱

私たちは豊かな自然環境にある山県郡安芸太田町井仁の「棚田交流館」をベースに、四季を通して自然との関わり方を学んでいく、子どもたちの活動を行っています。子どもには三歳から八歳の頃の「子ども時代」でしか学べない大切な感性があります。里山の自然のなかで「いとも簡単に気づく心のセンス」と「自分らしい自由な表現」を身につけていきます。「森の探検隊」は、まさに「驚きの玉手箱」です。



日本道路株式会社

東京都港区新橋 1-6-5 tel.03-3571-3626

日本道路グループ広島事業所 東雲スイミングクラブ

森の探検隊

2016年9月 森の探検隊「秋を探そう」活動報告

活動日程 / 9月25日 活動場所 / 広島県山県郡安芸太田町井仁地区
参加対象 / 年長8名及び小学二年生8名 (広島県廿日市市域主体居住児童)

弊社は社会貢献活動のなかで特に要望が多かった「子どもたちを対象とした次世代育成の取り組み」を、2015年8月より開始いたしました。昨年に続き子ども時代でしか身につけられない自然への気づきと感性を育むことをテーマに開催した『森の探検隊』の様子を報告いたします。

2016年10月 日本道路株式会社



集合・出発

おはようございます



チームの仲間をよんできて



みんな待ってるよ・・・



2回目は笑顔の集合。

ドキドキの一回目にくらべて今回は笑顔の集合です。笑顔が笑顔を向かえにいきました。二回目の活動に向けてなごやかに出発しました。

みんなそろったね



おはよう
オハヨ



元気だった？



二年生の作業を見守る
年長の子どもたち

大丈夫かなあ・・・
できるかなあ・・・



稲刈り

二年生がリードしてくれました。
井仁の皆様のご協力により、稲刈り体験をさせていただきました。二年生から先に始め、彼らのリードにより年長の子どもたちも体験しました。



とれたよ
とれたよ
三回目だよ



とれたよ～

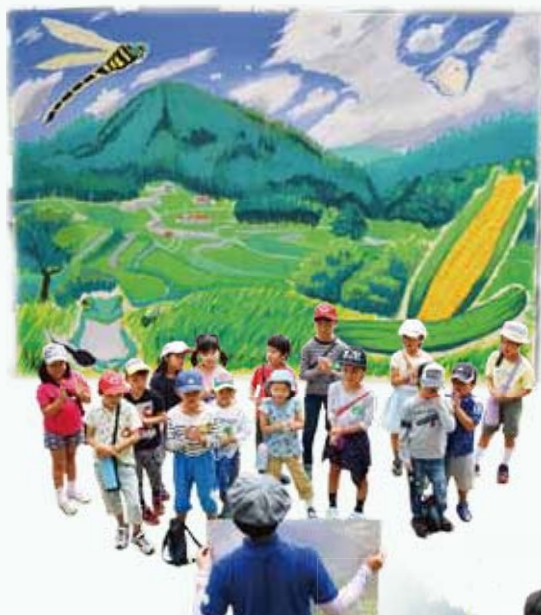
稲を刈るサクサクという音のなかに「できたよ」。少しばかり得意げな声もまざり、秋雨にぬかるんだ田んぼに足をとられ悪戦苦闘する子もいましたが、それもまた楽しく豊かにも思えた時間でした。

助けてよ～



山からひいてあるキラキラの水で
長靴も足もサッパリ洗い流しました





秋をさがそう

森の絵描きさんが言いました。君たちのおかげで棚田の夏が描けたよ。今度は君たちが棚田の秋をつくってください。

フィールドカード
森の絵描きさんから子どもたちにフィールドカードが手わたされました。秋の散策の始まりです。



秋を探すフィールドカード
フィールドカードには、チームで協力して色や音、不思議に思ったこと、チームで協力して棚田の秋を探そうとメッセージが書かれています。



おもしろい発見

この黄色の花はなんですか

それはカボチャですよ



不思議なもの



秋を食べよう

くり・なし・ぶどう・
子どもたちは食欲旺盛、稲刈りや散策のあとでお腹もすいていたようでした。しっかり遊んでしっかり食べること・・・基本ですね。



「何粒あれば一膳になるの？」
お茶碗いっぱいするにはどれだけの数のお米がいるんだろう？



「千粒はいるね」
「三百粒くらいじゃない」

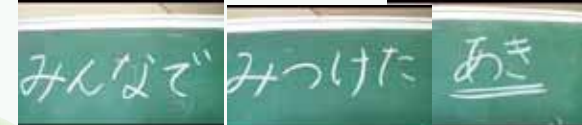
見つけた秋を教えてください。



「稲刈りの音が聞こえたサクサクって！」



子どもたちに質問をなげかけました。創作活動の前に子どもたちに質問をなげかけました。色や音や不思議に思ったこと。子どもたちはむつかしそうな表情をみせながらも次々に答えをだしていきま



「茶色」のものはありましたか

「音」は聞こえましたか

「さらさら」はありましたか



秋をつくろう

静かにしかし、ちょっと熱く。みんなで探して来た棚田の秋を創ってください。いっせいに作業は始まりました。色とりどりの布や、採集してきた植物などもつかって16人はそれぞれの想いの里山の秋を静かにしかし、ちょっと熱く小さな手を動かし始めました。



16人の里山の秋が彩られていきました。16人の里山の秋が白い紙の上に彩られていきました。二回目とあってチームワークもよく、あ〜でもない。こ〜でもないとの声のなか、黙々と作業は続きました。子どもたちのなかには事前に準備してきた子どももいて、一回目よりも確かに早く彩り豊かに創られていきました。



「チームの仲間と先生をつくりました。」

